



平成25年12月16日

海上保安庁

## 西之島付近の新島の火山活動は依然活発

羽田航空基地所属航空機(MA722 みずなぎ)による12月13日の観測結果を分析したところ、以下のことが明らかになった。

新島の火口から南西及び西南西に加え、新たに北西方向に溶岩が流れ下っており、海面付近で盛んに水蒸気を上げていた。火口からは、薄い青白色の火山ガスが高さ約1,000メートルまで連続的に上がり、黒色の噴煙が約5分間隔で高さ約150メートルまで達していた。

新島の面積は、11月21日に比べて5倍強になっている。

同乗した東京工業大学火山流体研究センターの野上教授から「西側への溶岩流の発達が顕著であり、海上保安庁が観測を実施した12月1日以降も大量の溶岩を流し続けるだけのマグマが安定的に供給されている。本島の方向にも溶岩流の伸延が認められ、活動の継続によっては西之島と接合する可能性がある。」とのコメントが得られた。

付近航行船舶へは、引き続き航行警報により注意を呼びかけている。

新島の形状(暫定値)

東西：約400メートル

南北：約300メートル

面積：約0.08平方キロメートル



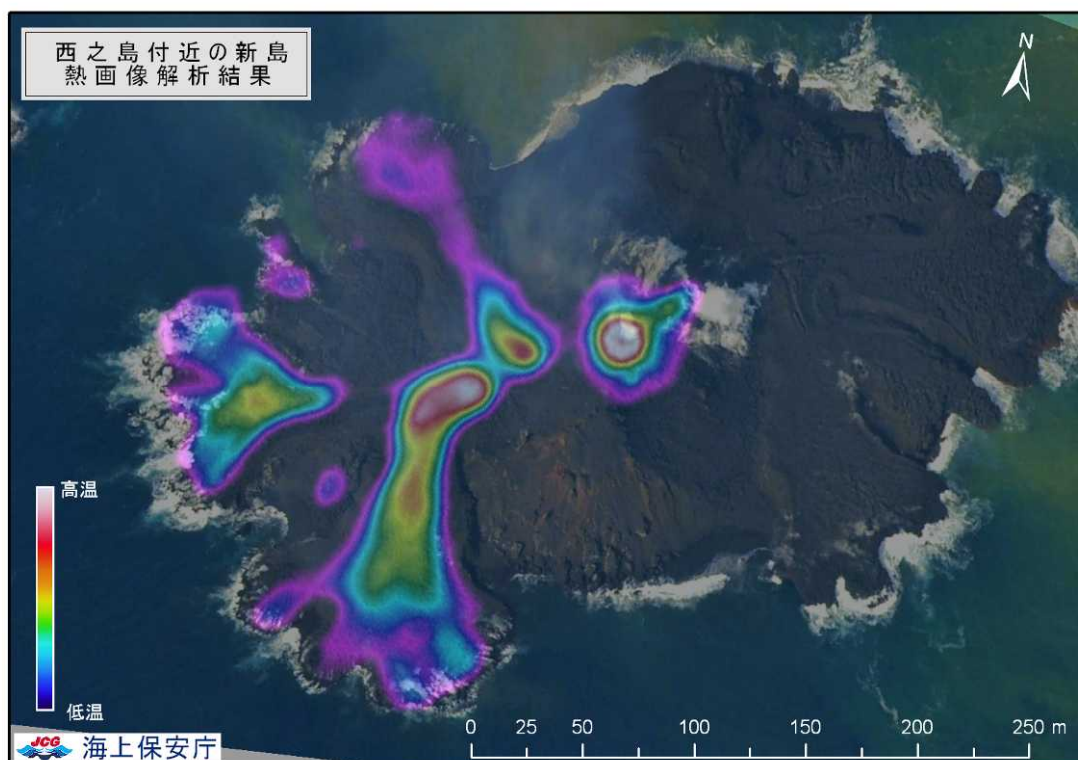
新島の噴火の様子(12/13 撮影)



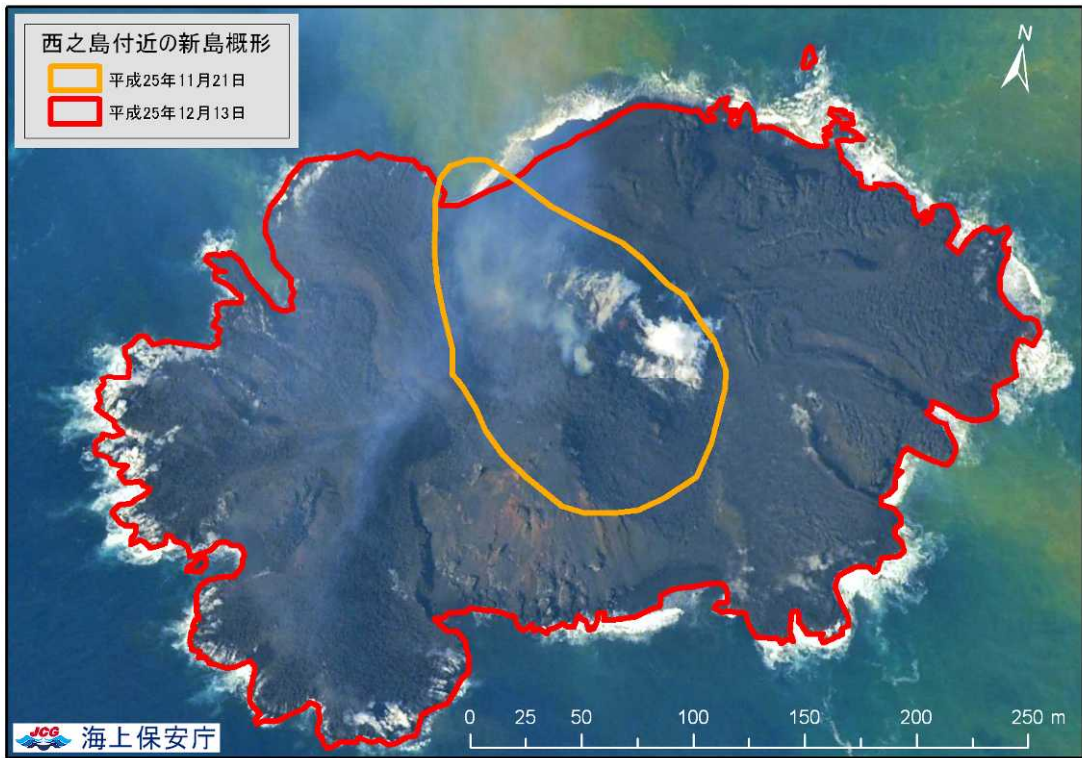
新島の噴火の様子(12/13 撮影) 3方向に溶岩が流れている。



赤外線カメラで撮影した新島の噴火の様子。噴出する火山弾と海に向かって流れる溶岩が確認できる。 (白いところが高温)



熱画像の解析結果。北西、西南西、南西方向に流れる溶岩が確認できる。



11月21日からの新島の形状変化の様子。画像は12月13日撮影。